

平成 30 年度 社会福祉法人カルスト会 事業報告

「誠実」「敬愛」「信頼」を基本理念として、安心、安全を第一に利用者サービスの充実・向上をめざし各種事業を推進するとともに健全な法人経営に取り組んだ。

経営基盤の強化の面で、懸案事項であった法人の中期事業計画を策定した。

6月の打合せ会において、法人の経営基盤の強化、利用者処遇の向上、職員の処遇向上・職場環境づくり等を目標とした事業骨子をまとめ、同月合同幹部会において策定委員を選出し、中長期計画策定委員会を発足した。

策定委員会では課題とされた事を、事業所、各部署において検討するなど現場の意見も取り入れ、職員に対し計画の必要性や、どう取り組むべきかを理解してもらう為に、講師を招き研修の場を設けるなど、7月からの短期間ではあったが、31年度からのスタートに向け、3月には策定された計画について、職員周知の研修会を行うことができた。

昨年度の補助事業の二酸化炭素排出抑制の実績報告は、防災減災関係、既存建物省CO2改修の両事業とも、初めて1年間稼働したデータで求めたCO2削減量により、削減計画値を達成した二酸化炭素排出削減量の報告書を提出した。

また、既存建物省CO2改修補助事業に対する会計実地検査を3月に受けることとなり、執行団体や、施工、協力企業等の指導を仰ぎながら、関係書類を整え受検、是正指示をされることはなかった。

通所事業廃止後の町有建物に関しては、6月の議会において法人に無償で譲渡することが決議され、8月1日付けで梶原町から引渡しを受けた。

このことを受け、福祉避難所、職員研修会等の場として機能向上を図るため、改修を検討し、31年度に社会福祉充実残額を使用して実施できるよう、県の所轄課等と調整を図った。

本年度は、法人始まって以来の職員の不祥事により懲戒解雇を行い、利用者はもとより、今日まで信頼してご支援いただいた方々に大変申し訳ないこととなりました。今後はこのようなことがないよう、信頼回復にむけ取り組んで参ります。

人材確保については、介護員の募集を職業安定所には年間通して求人、高校、新聞折込み、町内回覧等行ったが応募者はなく、福祉専門学校から新卒者の応募1名、正看護師応募1名に面接を行い、31年4月からの確保はできたが、年度当初には元デイ勤務職員の異動等で充足していた職員も、4月に一般職に採用した職員が10月に退職、休職中の職員2名の内1名は11月末に休職期間1年11か月で退職するなど他にも中途退職者が多く、必要とする介護員の確保はできていない状況にある。

また、定年延長についても、打合せ会において人件費の試算を行うなどしたが、来年度には実施時期等を決定する検討をしなくてはならない。

31年4月からの働き方改革については、時間外労働の上限規制や、年次有給休暇の確実な年間5日取得等について職員に周知し、特に年休取得については人手が足りないなか遵守できる方法を、計画年休の取得を含め協議し決定した。

今年度は、職員の自宅が被害にあう豪雨や、夜間断水に至る渇水など、水に悩まされた年でしたが、渇水時には自販機取扱業者より飲料水をいただくなど、皆様から様々なご心配いただきました。

1. 組 織

1) 理事名簿

平成 31 年 3 月 31 日現在

	役 職	氏 名	住 所	職業等	就任年月日
1	理 事 長	中 越 平	梶原町川西路 2282-1	団 体 役 員	H12. 3. 23
2	理 事	空 岡 則 明	梶原町六丁 140	会 社 役 員	H23. 4. 1
3	〃	岡 田 量	梶原町川西路 2357-7	無 職	H27. 4. 1
4	〃	岩 崎 悦 子	梶原町初瀬本村 112	職 員	H29. 4. 1
5	〃	熊 岡 健	梶原町永野 290	職 員	〃
6	〃	二 宮 佳 奈	梶原町梶原 1197-4	職 員	〃

2) 監事名簿

平成 31 年 3 月 31 日現在

	氏 名	住 所	職業等	就任年月日
1	山 口 敏	梶原町文丸 648	農 林 業	H24. 4. 1
2	矢 野 豪 佑	梶原町上折渡 137	団 体 役 員	H25. 4. 1

3) 評議員名簿

平成 31 年 3 月 31 日現在

	氏 名	住 所	職業等	就任年月日
1	矢 野 敬 明	梶原町上折渡 128	農 林 業	H29. 11. 8
2	西 村 正 義	梶原町仲洞 4884	建 築 業	H29. 4. 1
3	松 山 栄 喜	梶原町大向 305	農 林 業	〃
4	中 越 計 清	梶原町川井 7206	〃	H28. 5. 25
5	宮 本 友 和	梶原町梶原 1325-1	自 営 業	H27. 4. 1
6	神 明 靖	梶原町東川 123	会 社 員	H24. 12. 1
7	沖 田 佳 久	梶原町川口 5963	自 営 業	H29. 4. 1

4) 職員構成

平成 31 年 3 月 31 日現在

職名	事務局長	所属長	事務員	支援専門員	サービス管理責任者	相談員	機能訓練指導員 ・機能訓練員	管理栄養士	栄養士	看護師	介護員	計
施設名等												
本 部	1		2									3
居 宅 介 護 支 援 事 業 所		兼		2								2 (兼務 ^ハ -ト1)
梶 原 み ど り の 家		1			2		1		1	4 (^ハ -ト1)	43 (嘱1) (臨時10) (^ハ -ト5)	52 (嘱1) (臨時10) (^ハ -ト6)
特 定 相 談 支 援 事 業 所		兼		1								1

特養 栲原ふじの家		1		2		1 (嘱 1)	1	1		6 (嘱 1) (ハ°-ト 1)	43 (臨時 7) (ハ°-ト 9)	55 (嘱 2) (臨時 7) (ハ°-ト 10)
合 計	1	2	2	5	2	1 (嘱 1)	2	1	1	10 (嘱 1) (ハ°-ト 2)	86 (臨時 17) (ハ°-ト 14)	113 (嘱 3) (臨時 17) (ハ°-ト 16)

2. 理事会・評議員会、監査

(1) 理事会 5 回開催 評議員会 2 回開催

(2) 監査

①内部監査

法人監事による決算監査及び 3 ヶ月に 1 回の内部監査を実施して、法人の健全な経営に努めた。(年間 4 回実施)

監査実施日：平成 30 年 5 月 24 日、平成 30 年 7 月 19 日

平成 30 年 10 月 15 日、平成 31 年 1 月 21 日

(3) 高知県地域福祉部福祉指導課による監査

◎ 平成 30 年 8 月 8 日 (水) 午前 9 時から午後 4 時 【法人本部】

社会福祉法第 56 条第 1 項の規定に基づく実地指導

◇ 指摘事項

イ) 100 万円を超える物品購入に際し契約書が作成されていない

ロ) 200 万円を超える物品購入、業務委託について理事長の決裁により行っている事例がある。

◇ 改善報告 (平成 30 年 11 月 5 日改善措置報告書提出)

イ) 今後は規則に基づき契約書を作成する。

ロ) 予算承認時に詳細な説明を行い、議事録へ記載することとし、次回理事会において理事長専決に「200 万円以上であっても理事会で承認を得たもの」に加え、定款施行細則を改正する。(平成 30 年 12 月 13 日理事会承認)

12 月 17 日 改正後定款施行細則を担当チーフに提出

◎ 平成 30 年 8 月 7 (火) 午前 10 時 30 分から午後 4 時 30 分 【栲原みどりの家】

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第 11 条第 2 項の規定に基づく実地指導

◇ 指摘事項なし

◎ 平成 30 年 8 月 7 (火) 午前 10 時 30 分から午後 4 時 30 分 【栲原ふじの家】

老人福祉法第 18 条第 2 項の規定に基づく実地指導

◇ 指摘事項なし

(4) 会計検査院第 3 局環境検査課による会計実地検査

◎ 平成 31 年 3 月 5 日 (火) 午前 9 時 15 分から午前 11 時 20 分

二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金業務用施設等における省 CO2 促進事業
対応者：小幡眞己調査官

施工業者：(株) 四電工

執行団体：一般社団法人静岡県環境資源協会村上調査員

◇ 是正指示なし

平成 30 年度 カルスト会居宅介護支援事業所 事業報告

今年度開所した複合福祉施設利用については、昨年度末は慌ただしい準備期間であったが、4月からのサービス利用に繋げることができた。

デイサービス事業の上半期は、利用者、職員ともに新しい環境に戸惑い等もありトラブルもみられたが、支援をするなかで下半期は安定したサービス利用となった。

利用者数については、「ケアハウスゆるり」への入所もあり、施設入所は昨年度の14名から大幅に増加し25名となった。これは平成28年度の26名に次ぐ入所者数である。

新規利用者は45名と、前年度と比較し10名増加しているが、施設の新設もあり、月平均請求件数は、昨年の80件から約5件減少し、75件を若干超える実績にとどまった。

介護度の内訳としては、昨年度と同じく要介護1・2及び3の方が中心であるが、軽度者の受け入れ施設ができたことで、要介護1・2の方でも施設入所を希望される方がいる一方、最重度の要介護5の方が最期まで自宅での生活を希望される方もおられ、居宅介護の二極化が進んでいるように感じられる。

在宅での看取りやターミナルケアを希望される方も6名おられ、梶原病院をはじめ各事業所との連携を密にし、できるだけ本人やご家族の希望に添えるよう対応した。

要介護度別利用状況

サービス種別ケアプラン作成状況（延べ人数）

単位：人

	要介護度					計
	1	2	3	4	5	
デイサービスゆるり	177	227	100	29	45	578
デイケア	12					12
訪問介護	94	68	55	10	2	229
訪問看護			11	4	15	30
訪問リハ		18	36	2		58
福祉用具貸与	2	155	121	49	66	468
特養ふじの家短期入所	51	122	80	35	32	320

要介護度別ケアプラン作成状況（実人数）

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4月	23	25	18	5	3	74
5月	19	25	15	5	3	67
6月	22	25	15	6	3	71
7月	22	29	17	6	3	77
8月	25	27	17	3	4	76

9月	29	26	16	4	7	82
10月	28	28	15	6	7	84
11月	27	26	12	5	6	76
12月	28	25	9	7	6	75
1月	29	24	11	6	7	77
2月	29	21	12	3	9	74
3月	26	20	9	3	11	69
平均	25.6	25.1	13.8	4.9	5.8	75.2

平成 29 年度 平均 80.7 人

平成 30 年度 障害者支援施設梶原みどりの家 事業報告

主要事業の生活介護事業及び施設入所支援事業の稼働率は、残念ながら前年度に続き 90%を下回る実績となった。利用者の入退所では、入所者 5 人を確保できた一方、退所者は 4 人（全看取りケア）あり、年度末の利用者数は 74 人となった。短期入所事業については、利用人数は減少したものの、ロングショート利用が 2 人あり、利用日数は前年度対比 104%の利用実績となった。収入（自立支援給付費）については、平成 30 年度障害福祉サービス等報酬改定のほか、利用者数 74・75 人の利用月が 7 カ月あったこと、障害支援区分の上位認定が 8 人、入院者数の減少、特殊浴槽更新に係る国の助成金収入も含めた結果、稼働率は前年度を若干下回る一方、収入の確保にはつながった。

利用者支援では、障害支援区分 5（重度）・6（最重度）の利用者は約 8 割、平均年齢は 60 歳を超え、介護量の増加と継続的な治療や専門医療が必要な利用者は増えている。更に、家族及び身元引受人の高齢化に伴い、行政機関・医療・金融機関に関する対応など、施設が担う利用者の日常生活全般に関する支援も増えている。利用契約関係では、利用者個人で利用契約を結んでいる 2 人について、意思決定・判断能力の低下から行政の協力を経て、法人後見（梶原町社会福祉協議会）となった。

サービスの質の向上では、専門性をより高めて行く為に積極的な研修会参加を計画しましたが、新任職員研修・ケア基本研修・中堅職員研修を除き、日程調整等の管理不十分により参加に至らなかった研修が多くあった。このことは深く反省し、今後同じことにならぬよう徹底して参ります。また、業務の改善・見直し・効率化では、日々業務上で取り扱う情報や連絡・伝達事項などの紙面情報について、利用者記録システムと一元的に活用できるよう電子情報化（パソコン登録情報）し、業務予定・計画を全パソコンで共有できる機能も加え、情報のタイムリーな活用・確認ができるなど省力・効率化を行った。

施設整備では、老朽化した特殊浴槽の入れ替え（特殊浴槽更新工事 6,740 千円）、畳間からフローリングに改装（居室改修工事 1,253 千円）、スタッフルームの給湯をボイラー給湯に変更（給湯設備修繕工事 1,232 千円）を実施し、年度末には全利用者の居室利用調整を行い、安全で安心なサービス提供体制の整備に取り組んだ。

職員の確保では、今年度定年となる介護員 1 名について、継続雇用により次年度からも即戦力として勤務することになった。また、9 月には U ターンの介護員 1 人を確保できた。退職者は介護員 3 名（8 月・11 月・3 月）あり、自己都合・家庭事情等による退職となった。

県指導監査・実地指導（平成 30 年 8 月 7 日）では、改善等が必要な指導事項はなく、講評において利用者事故の県への報告ができていないことについては改善した。施設全体が明るくきれいであり、新人の育成・指導体制や書類等の整備もできている。良い支援ができているのであらうと感じたと言葉がありました。

苦情相談（第三者委員）体制では、今年度末で任期満了となる中平俊一氏について、引き続き次年度から 2 年間の任期（第 6 期目）で就任していただくこととなった。

1. 施設利用状況（平成 30 年度）

1) 利用者状況

在籍者数	性別	前年度末	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数 (月末)	男	44	44	44	44	45	45	46	46	45	47	46	46	46
	女	29	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28
合計		73	72	72	72	73	73	74	74	73	75	74	74	74
内 訳	入所	男				2		1			2			
		女												
	計 (5人)					2		1			2			
	退所	男				1					1		1	
		女		1										
	計 (4人)			1										
増/減(1人)			▲1			1		1		▲1	2	▲1		

2) 入退所者の内訳

	入所前 退所後	人数	内 訳
入所者	病 院	1人	高陵病院
	在 宅	2人	四万十町、鬼北町
	その他	2人	グループホーム・南海学園
	計	5人	
退所者	病 院	人	
	在 宅	人	
	他施設	人	
	死 亡	4人	看取りケア
	その他	人	
	計	4人	

3) 市町村別利用者数

平成 31 年 3 月 31 日現在

県 内	市町村	人数		県 外	市町村	人数	
		男	女			男	女
高知県	高知市	9	2	愛媛県	宇和島市	3	2
	香美市	1			西予市	1	
	香南市	1	1		今治市		1
	安芸市	1			愛南町	3	2
	土佐市	1			鬼北町	1	
	宿毛市	2	1	愛知県	小牧市		1

(高幡圏)	いの町	2	2	鳥取県	鳥取市	1	
	佐川町	1		県外計		9	6
	須崎市	4	5	合計		46	28
	四万十町	4	1				
	中土佐町	1	2				
	津野町	3	2				
	梶原町	7	6				
県内計		37	22				
				平均年齢	最高齢	最年少	
				男性	58歳	79	20
				女性	64歳	87	37
				全体	60歳		

4) 生活介護・施設入所支援

単位：利用延人数

事業	開所日数	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
生活介護	260	0	0	2,485	1,839	4,161	10,229	18,714
施設入所	365	0	0	3,489	2,583	5,837	14,352	26,261

◇稼働率

年度	生活介護（定員 85 人）		施設入所支援（定員 80 人）	
H30 年度	84.7%	72.0 人／1 日	89.9%	71.9 人／1 日
H29 年度	85.0%	72.2 人／1 日	89.8%	71.8 人／1 日

5) 短期入所

区分	開所日数	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
日数	365	0	22	287	18	212	0	539

(室戸市・高知市・須崎市・津野町・四万十町)

◇稼働率

年度	短期入所（定員 8 人）	
H30 年度	18.7%	1.5 人／1 日
H29 年度	17.7%	1.4 人／1 日

6) 日中一時支援事業（利用実績なし）

7) 入所者状況（平成 31 年 3 月 31 日現在）

◇年齢別構成

19 歳以下	20～24 歳	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳	40～44 歳
0 人	1 人	0 人	0 人	4 人	3 人
45～49 歳	50～54 歳	55～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70 歳以上
7 人	6 人	14 人	12 人	9 人	18 人

◇障害別利用状況（手帳交付者）

性別	身体障害	知的障害	精神障害	備考
男	43人	9人	2人	
女	27人	8人	1人	

◇障害支援区分別利用者数

障害支援区分	軽度				最重度		計
	1	2	3	4	5	6	
男	0	0	6	5	10	25	46
女	0	0	2	4	6	16	28
計	0	0	8	9	16	41	74
比率 (%)	0%	0%	11%	12%	22%	55%	100.0%
平均障害支援区分							5.2

平成 30 年度 カルスト会特定相談支援事業所 事業報告

今年度の計画相談支援サービス契約件数は、新たに 6 件の契約締結（施設入所者 5 名、地域サービス利用 1 名）と、6 件の解約（施設退所者 4 名、計画相談支援給付なしとなった 2 名）があり、年度末の契約総件数は 80 件となった。内、13 件は地域サービス（就労継続支援）を利用している障害者となっている。

サービス利用計画作成では、当初計画通りの実績（21 件）となり、モニタリングでは、当初計画より 16 件増え 85 件の実績となった。モニタリングの件数が増えた内訳は、新たな施設入所者及び市町村から当事業所に移管のあったサービス利用者によるものである。

訪問・相談では、サービス利用者の高齢化や重度化による支援・介護量の増加は顕著であり、施設入所者だけでなく就労継続支援の現場でも同様な状況が見られる。また、発達障害の一つである ASD（自閉症スペクトラム障害）を持つ障害者の相談では、梶原町の担当者から情報提供を受け、就労希望について相談対応を行いました。コミュニケーション・社会適応性などの障害から、人との関係性を築くことや保つことが困難であることから、サービス利用に繋がらず残念な結果となった。

平成 31 年度からモニタリングの経過措置期間が終わる施設入所者が多くあり、1 年に 1 回のモニタリングは 6 カ月に 1 回となる。更に平成 30 年度報酬改定により、計画相談支援給付費は新単位が適用され、就労系計画相談支援給付費は施設入所系給付費と同じになり（経過的支援費の終了）、件数増の一方で、1 件あたりの給付費収入は減となる。

今後も、様々な困難事例にも対応できる体制づくりと人材育成に取り組むと共に継続的なサービス利用と安定した日常生活につなげる為に、事業者及び関係機関との調整・情報収集や連携を大切に取り組んでいきます。

1. 利用契約・サービス利用計画・モニタリングの実績

◇相談支援契約（前年度末：80 件）

（平成 31 年 3 月末現在）

	契 約		サービス利用計画			モニタリング			訪問件数
	新規	解約	※1 入所者	※2 地域	計	※1 入所者	※2 地域	計	
H30 4 月	0	▲1	1	2	3	11	3	14	17
5 月	0	0	2	1	3	3	3	6	8
6 月	1	0	0	1	1	11	0	11	13
7 月	1	▲1	1	1	2	4	0	4	6
8 月	1	0	2	0	2	3	0	3	4
9 月	1	0	1	0	1	3	1	4	10
10 月	0	0	3	1	4	7	3	10	11
11 月	1	▲1	1	0	1	1	4	5	8

12月	0	0	1	0	1	9	1	10	11
H31 1月	0	▲3	0	0	0	2	0	2	4
2月	1	0	2	0	2	2	0	2	4
3月	0	0	1	0	1	12	2	14	17
合計	6	▲6	15	6	21	68	17	85	113
契約 件数	80		施設入所：67件 地域：13件（就労継続B型、グループホーム）						

※1 入所者：サービス使用支援費、継続サービス利用支援費

※2 地域：経過的サービス利用支援費、経過的継続サービス利用支援費（平成30年度で修了。平成31年度より※1に同じ。）

2. 業務活動等

日付	内容	開催地
平成30年7月24日	強度行動障害の理解と教育支援の在り方	高知市
平成30年9月5日	成年後見利用促進セミナー	須崎市
平成30年9月29日	障害者福祉総合研修会	高知市
平成30年10月15～17日	相談支援従事者初任者研修	高知市
平成30年12月3日	障害者自立支援協議会実務者会議（第1回）	梶原町
平成31年1月30日	障害者自立支援協議会実務者会議（第2回）	梶原町

平成 30 年度 特別養護老人ホーム栲原ふじの家 事業報告

介護報酬改定では基本単価の改定と、新たに喀痰吸引資格取得者が対象の夜勤体制加算、生活機能向上連携加算、褥瘡マネジメント加算の申請を行い算定要件を満たし取得した。短期入所事業も利用日数が当初見込みを大幅に上回り、増額収入となった。デイサービスセンター栲原ふじの家が事業廃止となったが、新規の短期入所利用者の細かな情報収集には、居宅介護支援事業所、デイサービスセンターゆりりと連携を図り地域の利用者サービスの向上を図った。

本年度は、統一ケアを目標に掲げ施設全体で取り組んだ。昨年度、高知家基本ケア普及員の方々を講師として迎え、施設にてノーリフティングケア研修を 3 日間行い、今年度 8 月から普及員の一人である理学療法士に月 1 回来所していただき移乗介助、ポジショニング等の指導をしていただいた。また、介護リフト(手動)を各グループに 1 台、介護リフト(電動)を各階に 1 台購入し、トイレ介助や入浴介助に活用した。

ノーリフティングケア研修に主任 2 名、介護員 2 名が、年間 5 回参加し施設全体としての計画を立て職員全員で実践したことが、職員の意識改革、ケアの向上に繋がった。受講後、推進員である職員が勉強会で、日頃の動作、服装、靴など腰痛になるリスクについて講義を行い、職員の腰痛予防に取り組んだ。3 月には、高知家ノーリフティングフォーラムにて、1 年目の取り組みを発表する機会を与えていただき大変貴重な経験となった。今後も利用者と職員を守れる働きやすい施設づくりに努めていきたい。

施設設備では、1 階旧館、2 階旧館東トイレの改修工事を行い、従来 3 つあった便器を 2 つに改修し、車椅子や、介護リフトでの介助がしやすくなり利用者にも大変喜ばれた。

職員については、元デイサービス職員 4 名が 4 月から施設で勤務したが、1 名は 4 月末で退職した。また、正職員の年度途中の離職も 3 名あり、年間を通して人材不足が続いた。また、身体的な体調不良で休職せざるを得ない職員が続出した。また長期休職者は 1 名で精神的不調により 1 年間の休職となった。

中長期計画策定委員会には施設長と主任介護員 2 名を委員として、施設の現状を分析して「強み」「弱み」を整理し、今後の施設の「あるべき姿」について検討し 3 年間の計画を立てた。

行事では、年に一度の大きな行事である敬老会が、肺炎球菌ウイルスの疑いも含め 7 名の方が罹患され、感染拡大を考慮し急遽中止とした。楽しみにされていた利用者、ご家族には大変残念な結果となってしまった。3 日前の急な判断により、関係機関を始め、業者の方にはご迷惑をかけることとなったが、柔軟な対応をしていただき感謝している。

本年度も多くのボランティアの皆様にご訪問していただき、利用者の笑顔あふれる楽しいひとときを過ごすことができた。地域のみなさまのご支援、ご協力に深く感謝している。

1. 利用者生活状況

1) 市町村別入退所状況・年度末入所者数（人）

市町村		梶原町	高知市	須崎市	津野町	中土佐町	計
入 所	男	11		1	1		13
	女	8			1		9
	計	19		1	2		22
退 所	男	8					8
	女	11				1	12
	計	19				1	20
3 月 末 人 員	男	16		3	1		20
	女	52	2		5		59
	計	68	2	3	6		79

2) 介護度別一覧（人）

要介護度 3	24
要介護度 4	33
要介護度 5	22

平成 30 年度 平均介護度 3.97
 (平成 29 年度 平均介護度 4.01)

平成 30 年度 年間在所延日数 27,654 日
 (平成 29 年度 年間在所延日数 27,906 日)

3) 入院・外泊等状況（請求ベース）

延日数	1,287 日
月平均	107 日
一日当り	3.5 人

4) 入退所状況（人）

入 所	自宅より	15	
	病院より	6	梶原 (2)・ちひろ (1)・高陵 (2)・一陽 (1)
	他施設より	1	ケアハウスゆるり
	計	22	
退 所	死 亡	18	施設看取り 5 名・梶原病院 13 名
	その他	2	入院継続 2
	計	20	

5) 男女別年齢構成

以上 未満	60 ～ 70 歳	70 ～ 75 歳	75 ～ 80 歳	80 ～ 85 歳	85 ～ 90 歳	90 ～ 100 歳	100 歳 以上	合計 (人)	構成 比(%)	最高 (歳)	最少 (歳)	平均 (歳)
男	3	2	3	2	4	5	1	20	25.3	103	64	83
女	0	1	2	5	21	28	2	59	74.7	101	72	90
計	3	3	5	7	25	33	3	79	100			86

6) 短期入所利用状況 (1日平均 8.2人)

※延日数保険外利用含む

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
実人員	27	27	25	25	27	29	31	31	24	26	27	24	323
(内予防)	(1)	(0)	(1)	(0)	(1)	(1)	(0)	(2)	(0)	(1)	(1)	(0)	(8)
(保険外)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(1)	(2)	(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	(5)
延日数	262	270	187	230	275	275	334	237	268	222	227	226	3,013

平成 29 年度 平均 7.6 人 年間 2,765 人